

令和4年度全国学力学習状況調査の結果分析等について

学校名

秦野市立上小学校

1 調査結果の分析と考察

本校の特徴	本校の課題
(1) 国語科「読むこと」については、登場人物の相互関係について、描写を基にとらえること、人物や物語の全体像を想像する、話し言葉と書き言葉との違い、などがよく身についています。	(1) 国語科「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと、文章に対する感想や意見を伝え合い、文章のよいところを見つけることに課題が見られます。
(2) 算数科では、目的に合った数の処理が、よく理解できています。表の意味を理解しある項目に当たる数を求めたり、分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察したりする力は概ね身についています。	(2) 算数科では、数量の関係に着目し、伴って変わる二つ数量の関係について、表や式を用いて、変化や対応の特徴を捉えることに課題が見られます。
(3) 理科では、実験や観察で得た結果を、問題の視点で分析・解釈し、自分の考えをもつことができます。また、天気や季節による気温の変化の違いなどは、よく理解できています。	(3) 理科では、目的に応じてどの器具や機器を使用するとよいかについて、器具や機器を選択し、捜査の手順と併せて考えることに課題が見られます。器具の理解、正しい扱い方を理解し、観察、実験などに取り組むことが大切です。

2 昨年度の取組の分析と考察

(1) コミュニティスクールとして、地域と共に特色ある学校づくりを推進し、家庭や地域との連携を深め、明るく爽やかな「開かれた学校づくり」に努めてきました。相撲大会、お茶摘み、遠泳教室、さといも掘り、ぶどう狩り、幼小合同運動会、などさまざまな行事を通して地域、家庭、学校と連携した教育活動が行えています。
(2) 児童の個性を生かす教育の推進を図ってきました。「自分には、良いところがある」と全児童が肯定に回答しています。少人数である良さとして、引き続き、一人一人の良さを具体的に伝えることを通して、自己肯定感を育てていきます。
(3) これまでICTを活用した授業や教育活動を推進し、一人一台の端末を活用し、主体的な学びの実現をめざしてきました。全員の児童が活用することで勉強の役に立つと感じています。さらに、発表や意見交換、調べ活動等、学習で活用する場面を増やしていきたいと思えます。

3 教育水準の改善向上に向けた次年度の取組の方向性について

(1) 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の書いた文章のよいところを見つけることができるような取組を進めていきます。また、読書の種類を増やし、読むことと書くことの関連を図り、日常的に文章に対する感想や意見を伝えあうなど、自分の文章のよいところをみつけていけるようにしていきます。
(2) 漢字を文章の中で使うことに課題が見られるため、学習において感想や振り返りを書く場面や、日常生活において日記を書く場面などで、語彙を増やし漢字を使うことを意識した指導を進めていきたいと思えます。
(3) 日常生活の事象において、割合として表される数量に係る生活体験を豊かにし、図や表、数や式に関連付けて理解できるようにしていきます。

4 家庭・地域の方へのメッセージ

「いじめは、どんな理由があってもいけない」「人が困っているときは進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」と全児童が肯定を回答しています。このことは、保護者・地域の方々の教育活動の参加もあり、規範意識や人との豊かな関わりの中で育まれています。今後も大切にしたい良さです。学習習慣では、授業以外の放課後、休日の読書や勉強時間が少ないので、中学に向けて、自分の考えた復習や読書を家庭で進んで行えるよう働きかけていきます。家庭でも前向きに取り組めるよう励ましをお願いいたします。今回の調査で全員が最後まで解答を書こうと努力していました。何事もあきらめずに努力する児童の良さを大切にしていきたいです。